

漣標

Miotsukushi

1999年3月15日発行

No. 72

MIOTSUKUSHI

大阪府青年国際交流機構

会長 松本 仁孝



今号の紙面

国際交流フォーラム報告

東南アジア青年の船レポート

平成11年度事業年間スケジュール

IYEO活動方針

リレーメッセージ

12月12日
開催

青少年国際交流フォーラムに参加して

木下 昌恵

9月、実行委員が集まった。集まったのは、私達IYEOだけではない。協力隊、洋上大学、インターユース、各々から集まり、それぞれの団体の個性の一面を見るような集まりだった。ゲストを探す、テーマを決める、進行について考える。毎月、着々と決まってくる。けどわからないのは、人数。予約者は極めて少ないらしい。(赤字?)当日でないといけない。予約は増えない。



当日は、会場設営から始まる。沢山の当日スタッフが集まってくれた。中国の二胡、メキシコの民族舞踊。そして、それぞれの報告発表。それぞれが事業を通して咲かせた様々な花をみているようだった。このフォーラムは、青少年の育成事業を、たくさんの人に知ってもらうために開催される。どれだけの人が共感しただろう。どれだけの人が、この事業に吸い寄せられてくるのだろう。小さいけれど、パワフルなフォーラムだった。またいくつもの新しい花が開くだろう。(最後に、当日報告やスタッフのために集まってくださった皆さんに連絡が行き届かず迷惑をおかけしたことを謝りたいです。) そう、私自身、学ぶことの多いフォーラムでした。

25回東南アジア青年の船参加青年レポート

安藤 美奈子

この報告書提出を機に、今回「東ア船」に参加させて頂いた私が、プログラム中に感じた改善点について、述べたいと思います。

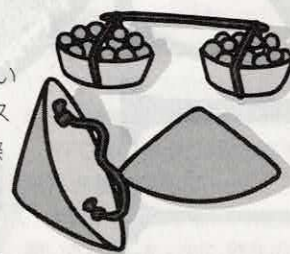
まず船内でのスケジュールが過密でありすぎる点です。海の上の船の中、つまり、揺れる乾燥した船内という日常生活と異なる生活環境の中、体調も狂いがちです。途中、このプログラムが苦に思えた時もありました。もっとゆとりのあるスケジュールであれば最後まで船内活動が楽しいものであり続けると思います。二点目は、参加青年の選考についてです。英語の基礎力(中学で学ぶ程度)があることを必須条件にすべきだと思います。事業の目的に「To promote & strengthen friendship & mutual understanding among the youth people of the participating South East Asian countries & Japan...」とあります。選考は各国政府に任せているとのことですが、コミュニケーションなくして、この事業の意義がなくなってしまう。

以上、二点を改善点として述べましたが、今後の東ア船がより有意義なものとなる為、考慮していただければ幸いです。

東南アジア青年の船に参加して

森岡 創

このプログラムに参加するに当たって、志望動機のひとつに自分の国際感覚を磨くというのがあった。このとき、私の考えにあった国際感覚とは、英語が出来て、外国人とスムーズにコミュニケーションがとれ、外国のことをよく知っているということだった。国際感覚とか国際化とかよく言われるが、それはほとんどの場合において、英語がよくしゃべれて、アメリカやヨーロッパの文化、生活、そしてビジネスに詳しいということを指す場合が多いようにおもう。ビジネスの「国際」標準は、欧米の標準であり、「国際的」に権威のある映画祭はハリウッドやカンヌの映画祭であり、そして東南アジアと日本のプログラムであるこの東ア船の、「国際的」な共通語は英語である。



今まで、東南アジアの国に旅行し、その国の人と知り合う機会があった。これももちろん国際交流だったが、アジアというと、日本も含めて、良くも悪くもエキゾチックな要素の強い、悪くいえば非主流的なイメージがあった。欧米の生活スタイル、価値観を何となくではあるが、目指すべき目標に置いてしまう傾向は、私だけでなくアジアや発展途上国にすむ多くの人が持っているように思う。単純に考えれば、なんといっても英語を話せて、欧米流のビジネスを知っていれば、経済的に豊かになれるというのがある。

しかし、東ア船はこのような私の見方を変えてくれた。各国の参加青年と話し、ホームステイ先のホスピタリティにふれる中で、東南アジア諸国の様々な長所、フィリピンのホスピタリティ、タイのおおらかな優しさ、マレーシアのねあかな明るさなどにふれ、身近なアジアにすばらしい人たちがいるのを知った。各国の文化などでもこんなに面白くて独創的な音楽やダンス、そして食べ物や衣服などがあることを発見した。その中でも、もっとも大きいのは自分の国の文化に対する発見かもしれない。和太鼓やお茶などいまままで聞いたことはあったがふれる機会のなかったものに初めて挑戦し、そのおもしろさを発見できた。また剣道など、自分が何となくやってきたものに外国の青年が興味を持ってきて、いろいろ教えたりするうちに、ただ自分としては単にスポーツとしてやってきたものが、日本の文化として深い意義を持っているものだという事もわかった。

実際本当は自分の文化やアイデンティの発見が望まれる国際化の第一歩なのかもしれない。もし国際化を単に英語を話せたり、欧米の企業とのビジネスとかのレベルで考えれば、自分自身は世界の端っこにいて、中心からのものをただ単に受け入れる存在になってしまう。自分の国にアイデンティがなければ、貧困や、環境破壊などの問題があったとしても、それが自分自身の国の問題とはとらえられないだろう。アジアなどの途上

東南
アジア
青年
の船
帰国

リレーメッセージ

(社)ガールスカウト日本連盟大阪府支部支部長
第9回青年の船 東南アジア班長

浮田 美弥子

日常生活の中でのさまざまな伝統行事の中で季節を感じたり、家族の健康や成長を祈ったり感謝する心、地域の人々とのふれあいなど目に見えない何かがあるように思います。自然や風土、歴史のなかで語り伝えられてきたり、育まれてきた文化を考え、自分の住む土地、社会に、どのくらい関心を持ち、愛情、魅力を感じて暮らしているのか振り返ってみるよい機会ではないでしょうか。

今、多くの人が海外へ派遣されています。それはそれで喜ばしいことですが、その参加者を選考する場面で、「あなたは自分の国をどのように紹介できますか?」と言う質問に「折り紙、習字、お茶、着物など」と言う答えがよく返って来ます。しかし実際には、「日本のこと、大阪のことを聞かれて答えられなくて困った」と言う声を耳にしたとき、単なる観光旅行ではなく、行政や団体の代表として選ばれて派遣される以上は一寸おそまつな気がするのは私だけでしょうか。表現されたものや方法だけでなく価値観やそれぞれの内なるものをいかにつたえることができるかが大切なことだと思うのですが……。

これは海外へ出掛ける時ばかりでなく、外国の人を迎えるときにも同じことが言えると思います。2008年大阪にオリンピックを! その時まで一人一人が大阪の町に誇りと自信をもてるように、わたしのまちの「たからもの」を再発見してみませんか。

国からアメリカへの頭脳流出が問題とされたことがあったが、単に経済的な理由だけでなくこれもこのようなアイデンティの喪失と関係があるように思う。ただ単に外の世界に顔を向けている国際化では、外の世界から得た知識や経験を自分の国やコミュニティの発展のために生かそうという発想は生まれてこない。一方で、途上国で貧困と環境破壊など、国際的な協力が必要とされる場所は、その国でもっとも国際化されていないところ、国際化から取り残されたところであるように思う。青年の船で学んだことはまだまだ十分でないかもしれないけれども、確かに自分の国際感覚を磨く第一歩になった。これから、一緒に船に乗った参加青年や、お世話になったホストファミリーとの交流を通じて、さらに多くを求めていきたいと思う。

船の後 俵 今日子

東 船に乗ると、人生変わる。そんな風に聞かされていた。「そんな大げさなあ……」と思いながら、私自身が一体どう変わるのか、楽しみなような不安なような、そんな気持ちで日本丸に乗り込んだ。今、東ア船が終わり、あの嵐のような2ヶ月間を振り返る。たくさんの喜怒哀楽が一緒になって押し寄せてきたような、そんな強烈な2ヶ月であった。

外国青年たちとの交流を通して様々なことを考えた。日本人である、ということを変更して認識させられたこともあった。その一つは「愛国心」という言葉についてである。この言葉は、今の日本人の心の中に、私自身の心の中に、現実にとどのくらい存在するのだろうか。寝食を共にし、色々な話をした。たとえ文化が違って、同じアジア人であることをお互いに確認しあった。しかしその中で、私にとってどうしても

理解し難かったものが、彼らの愛国心の強さであった。国旗掲揚式での国旗の扱い方がぞんざいだといって、外国青年たちから悲鳴があがる。私の小さな日の丸の旗を、ほんのはずみで下にに向けただけで、そんな事はしてはいけない、ときつく注意を受けた。彼らにとって、国旗は国家そのものだという。そして国家とは彼らにとって、歴史の中で長い時間をかけて勝ち取ったものである。自国を誇りに思い愛するということ、そしてそれを素直に表現することを当然としていた。だが、私の心の中に今、そんな気持ちがあるだろうか。自国を愛し、素直に表現することができるだろうか。歴史が違うから、ということは簡単だが、本当にそれだけが理由なのだろうか。いい悪いの問題ではなく、どうしてわたしにはそれが出来ないのか、というようなことを考えるようになった。

また、ある外国青年から「日本人が怒ったところを見たことが無い、なぜ日本人は怒らないのか」と聞かれて、大変驚いたこともあった。実は、彼女に対して怒っている日本人を、実際に一人知っていたからだ。ただ、彼女にとって、その日本人の怒りは怒りとして伝わっていなかった。コミュニケーションが下手だといわれる日本人だが、一方で、感情を表に出さないことをよしとする考え方がある。私自身も、常に冷静であることが自立した大人ということだ、と考えていた。しかし実際は、感情を押さえようとするあまり、うまく自分自身を表現出来なくなってしまっているのだろうか。そのことがお互いの理解を妨げ、一層大きな誤解となっていくのだろうか。そして、それは私自身の問題というだけでなく、日本人全体についても言えることなのかもしれない。

世界の中での共生ということを考える時、自分の考えを伝えるということは欠かせない。言葉、文化の違いを互いに認め、共感できないまでも理解しあって共に生きていこうとする、そのためにはまず自分自身を伝えることだ。今まで「日本人であること」がこんなにも自分に影響しているとは考えなかった。この旅で、そのことを考えるきっかけが与えられたこと、そのことについて共に話し合える友人を得たこと。船に乗ったから忍ち人生が変わった、ということはもちろん無かった。ただ、せっかく乗ったんだから、何か変えてみようかな……と考えている船の後の私である。



アジアの船 REPORT

11年度交流事業年間実施スケジュール(案)

	平成10年度			平成11年度											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
共通事項	○11年度事業計画作成	○国際交流連絡会議 ○都道府県主管課長会議	○参加青年募集開始	○11年度事業要綱決定	○参加青年募集締切	○選考試験 ○参加青年決定	○受入れ県調査		○都道府県主管課長会議				○12年度事業計画作成	○国際交流連絡会議 ○都道府県主管課長会議	○参加青年募集開始
国際青年育成交流 日中青年親善交流 日韓青年親善交流 アジア太平洋 青年招へい			○政府職員招へい	○招聘事業受入れ県会議			育成交流(京都・滋賀) ○(招へい) ○派遣事前研修	青年の村 三重県		育成交流日・韓 (招へい) アジア太平洋 (派遣)		日中 親善交流 (招へい) 日韓 (京都市) (招へい)			○政府職員招へい
世界青年の船	○1219 ○各国に青年選考依頼	○世界青年の船事業	16 ○世界船職員招へいNLS会議	○船事業受入れ県会議	事前調査		○世界船事業事前研修	管理部署 室使用		○世界船運航(50)		World Youth Meeting (シンガポール)		○各国に青年選考依頼	○世界船職員招へいNLS会議
東南アジア 青年の船	世界船NLS会議準備 平成11年度世界船準備		○政府職員招へい	○船事業受入れ県会議	○各国連絡会議			○東ア船事業事前研修 事前調査			管理部署 室使用	○東ア船運航(44) 国内P ・OBSC	国内研修		○政府職員招へい

決定! 日本青年国際交流機構活動方針

1 国際化時代にふさわしいリーダーの育成

(要点のみ掲載)

(1) 次代を担うリーダーを自らの手で発掘する

小中学校の特別授業への参加、青少年団体の集会での報告会などの機会を多く持ち、広く一般の青少年に派遣経験を伝えることで海外に興味をもってもらい、参画を促す。

(2) 地域青年団体の一つとして指導的役割を果たす

地域の青少年関係施策等に積極的に協力すると共に、国際交流プログラムにおいては自らの経験を生かし、指導的役割を果たす。また、他団体との共同事業にも参画し、より視野の広い活動に取り組む。

2 地域国際化時代への貢献

(1) 国際交流の機会を提供する

- 外国青年の受入れ事業の実施 ●地域在住の外国青年との交流機会のコーディネート
- 受入れ青年との連携による研修ツアーの企画
- 機関紙、セミナーなどを通じた地域への国際化情報の提供等を担う

(2) 交流体験を活用する

「人と人との交流」の大切さ、楽しさをより多くの人達に伝えるために、交流ノウハウの情報化(プログラム作成、ホームステイの手引作成、プロトコル等情報)や、豊富な人材の提供(コーディネート、アテンド、ホームステイ、通訳等)を積極的に行う。

3 国内・国際ネットワークの確立と機能の充実

(1) 47都道府県のネットワークを活用する

本会は各都道府県ごとの独自性を尊重しながら活動が展開されているが、「本部と地方」「地方と地方」の結び付きを強めることで、ノウハウの交換や共同事業の実施等ネットワークの充実に努めていく。

(2) 国際ネットワークを拡充する

「東ア青年の船」事業を通じ、アセアン各国とは「SSEAYPインターナショナル」という国際組織が結成された。他の事業も交流を深めた国々との連携が図られつつある。これらの結び付きをより一層「強く」「広く」「深く」発展させていきたい。

第29回 全国推進会議開催 2/27・28

オリンピック記念センターで開催された会議では、まず平成10年度青少年国際交流事業報告、平成11年度の事業説明がなされました。今年より世界船の運航が、9月上旬～10月下旬に、東ア船の運航が、11月上旬～12月中旬にと大幅変更されました。(表) また、各メンバーは、シンガポールで入れ替わるという画期的な計画になっています。

大阪の11年度の受入れは、日・中青年親善交流で、11月中・下旬となりましたので、委員会発足の節は皆様の積極的な参加をお待ちしています。

IYEO関係として、活動方針が採択されました(別記)。各都道府県においてどこまで活動方針に沿った活動ができていくかの検証をも酒井会長よりお願いされました。次に、昨年の全国大会開催県の徳島県よりお礼と報告が、今年度の岐阜県よりお願いと準備状況報告がありました。なお、2000年は富山県で、2001年は山口県での開催が決定し、SSEAYPインターナショナル第12回総会はシンガポールで8月に開催が確認されました。また、近畿ブロック大会(海外派遣青年のつどい)は兵庫県で、7月頃の予定です。28日には、国際化時代にふさわしいリーダーの育成、地域国際化への貢献、国内・国外ネットワークの確立と機能の充実の3つの分科会に別れて討議しました。

募集!

第20回 近畿青年洋上大学

今年で第20回を迎える近畿青年洋上大学の参加者募集がいよいよ4月1日より始まります! 近畿2府7県から500名近い若者が参加します。

訪問先は中国の北京・天津・上海。期間は1999年8月13日(金)～8月25日(水)の13日間です。

豪華客船「ばしふいっくびいなす」での楽しく有意義な船

旅がたったの16万円で実現! どんな出会いや感動を体験するかはあなた次第です。私は第15回のリーダーで参加しましたが、班員たちは今だに年3～4回の交流を続けています。この事業に参加することで得られる一番の収穫は、一生つきあえる仲間ができることかもしれません。

お問合せ 大阪府生活文化部 スポーツ青少年課 育成係
06-6941-0351 (内線4844)

